

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	鳥栖市立鳥栖西中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標「西中一心～夢の根っこを育てる～」のもと、重点目標「①志を高める教育の推進 ②確かな学力を育む教育の推進 ③豊かな心・健やかな体を育む教育の推進」の達成に向けて職員がチームとなって教育活動を行い、おおむね成果を上げることができた。 重点目標①：学校行事や体験学習等において、自らの夢や目標について考えさせることができた。今後は、授業・行事等のあらゆる教育活動において、生徒が自己決定し、能動的に取り組むよう仕組んでいくことで、自己肯定感や自己有用感を育て、自らの可能性を実感する機会を与えることを目指す
2 学校教育目標	「なりたい自分像」をもち、主体的に考え行動することができる生徒の育成を目指す

3 本年度の重点目標	学校教育目標の達成を実現するために次の態度を身に付けさせることを目指す ○見通しをもって計画的に行動する ○感情をコントロールする ○他者の立場で物事を考える ○目標の含意形成を図り、他者と協働する ○意見の対立や理解の相違を解決する ○場面に応じた言葉や技能を使いこなす ○信頼できる知識や情報を収集し、有
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価
(1)共通評価項目				
重点取組				中間評価
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)
●学力の向上	○自ら考え、決定し、表現する力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだと回答した職員の割合90%以上 ○学習の見通しと目的意識をもって学習に取り組み、知識や技能を身に付けることができたと回答した生徒75%以上	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を校内研究の取組の1つとして位置付け、研修会や相互参観等を通して意識を高める。 ・単元を通して身に付けるべき資質・能力を生徒と共有し、生徒が学習内容や自分の理解度などを自覚しながら、主体的に学ぶことができる授業の在り方を探る。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 定期的な生活アンケートを実施する。	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ●アンケートにおいて、学校生活を楽しく感じることができると回答した生徒が90%以上 ●人の話をよく聴き、相手の立場に立って考えようことができると回答した生徒が80%以上	・道徳教育や体験活動、人権・同和教育を核とした学校教育全体での心の教育の充実に取り組む。 ・いじめ・いのちを考える日」の取組を通して、命と人権を守ることの大切さを考えさせる。 ・いじめの未然防止に重点を置き、早期発見・早期対応・再発防止を柱として、組織的な対応を行う。生徒指導体制や教育相談体制の整備の整備を行い、家庭や関係機関との連携を重視して、生徒一人一人に寄り添った支援の充実に取り組む。	
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ●「健康は何より大切な」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・運動部活動の活動時間(平日2時間、休日3時間程度)を確保できるようにする。保健や体育の学習を通して、運動を続ける効果について学習させる。 ・安全・安心な学校給食の実施や学校の教育活動全体を通した食育に取り組む。「日刊給食たより」を用いて昼食時に食に関する放送を行い、健康と食事について考えさせる。 ・講師を招聘し、実情に合った交通安全教室を実施する。また、生徒会と連携し、自転車の乗り方や交通マナーの確認、定期自転車点検を行う。 ・保健体育の学習の学び方を工夫し、実生活に活かすことができるようにする。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務分掌の確実な遂行に取り組み、「チーム西中」の意識のもと、計画的・組織的な業務遂行に努めるようとする教職員の意識向上を図る。 ・定時退勤日の確実な実施に取り組む。また、平日でも目標とする退勤時間を設定し、教職員へ周知することで、退勤時間遵守に向けた意識化を図る。	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する理解の啓発と教師の専門性と意識の向上	○特別支援教育コーディネーターと、関係職員を中心として特別支援委員会を週1回開催する。 ○特別支援学級の担任同士で、スキルアップのための研修を行う。	・委員会を週1回定期的に開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成や、具体的な対応に関する協議を行う。 ・特別支援学級の担任を中心に、支援を必要とする生徒が社会的・自立的・職業的な自立に向け、自らの生き方に付いて考え、希望する進路を実現できるような進路指導及びキャリア教育の充実に取り組む。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
重点取組				中間評価
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・教科「日本語」の取組について、学期に1回程度、学校・学年たより等で保護者や地域に知らせる。 ・保護者・地域に対して教科「日本語」の授業を公開する。 ・学校全体で授業に関わる体制を構築し、魅力的な授業づくりを行う。	
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育				
5 総合評価・次年度への展望				